

【実践報告】

「幼児の理解」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 牧 亮 太 教授 上 村 加 奈

1 はじめに

本科目は幼稚園教諭・保育士を目指す学生が1年次後期に履修する科目であり、逞しい実践力のある保育者になるための第一歩となる科目である(図1)。二日間の実地観察を通して、幼児の心の動きを捉え、記述するための方法を修得するとともに、子ども理解の重要性を体験的に理解することをねらいとしている。2023年度の履修者は39名であった。

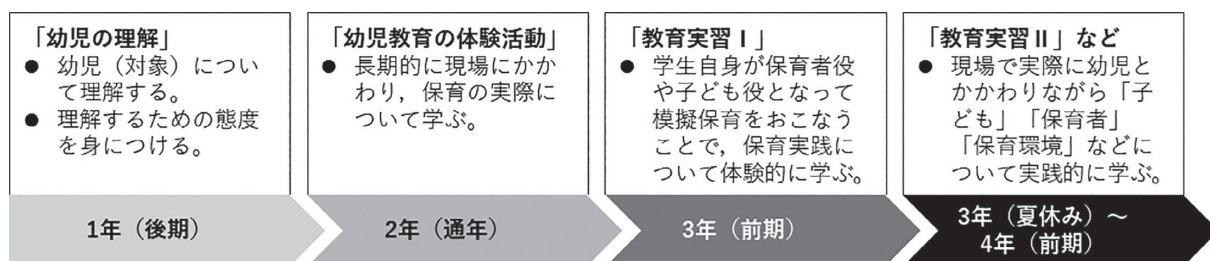


図1 教育学科幼児教育コースにおける実習関連科目の流れ

2 概要およびスケジュール

2023年度の実施スケジュールは表1のとおりであった。実地観察①では、幼稚園の1日を観察し、活動の流れと学生自身が心を動かされた場面を記録にまとめた。その記録を基にグループワークをおこない、エピソード記録の書き方を学んだ。実地観察②では自由遊びの時間に幼稚園を訪れ、子どもと一緒に遊びながらの参与観察をおこなった(1～2時間)。その後、最も印象に残った場面をエピソード記録にまとめ、校種間交流を行った。

表1 2023年度の実施スケジュール

日にち	主な内容
9/28	ガイダンス
10/ 5	子ども理解の意義
10/12	心がまえ・諸注意
10/19	観察の目的
10/24, 25, 26	実地観察①
11/ 2	記録に基づいた討議
11/16	エピソード記録の書き方
11/21～12/19	エピソード記録に基づいた討議
12/14	実地観察②
1/11	討議と発表
1/18	校種間交流
1/25	校種間交流のふりかえり
	まとめ

注：下線部は「児童の理解」「生徒の理解」と合同実施

3 成果と課題

授業全体の振り返りとして、子どもに対するイメージの変化について尋ねたところ、「とても変わった」「変わった」と回答した学生が、それぞれ43.2%、45.9%であった。その理由を見ると、思ったよりも「しっかりしている」「複雑」「いろいろな思いを持っている」などの変化があったことがうかがえた。

また今年度は校種間交流の形式を見直し、校種が異なる学生5～6名を一つのグループにし、互いのエピソード記録について話し合ったり、共通テーマ(子どもって〇〇)について意見を出し合ったりするようにした。交流会後の気づきには「他校種の人達と関わり、共通の考え(子どもたちは尊い存在である)を持っていることを知った」「それぞれ幼児、児童、生徒について理解しようとしていてとても刺激的になった」といった記述があり、子ども理解に関する学びが生じただけでなく、相互に刺激を受ける機会にもなったといえる。一方、グループによっては「幼児の理解」「生徒の理解」の履修者が欠席により不在となってしまったことから、次年度はグループ編成や当日の運営について検討していく必要がある。